

猫と塩

and

ま

た

は

SALT

砂糖

or SUGAR

田村健太郎 吉田凜音 諏訪太朗 池田成志 宮崎美子

監督・脚本・編集：小松孝

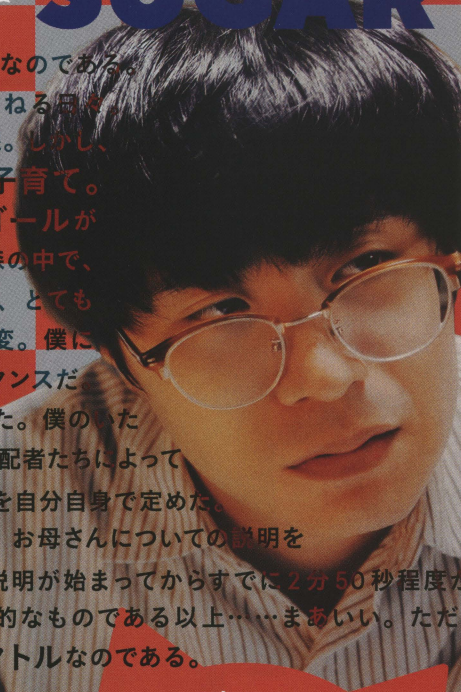
第25回 PFF スカラシップ作品 | 製作：矢内廣、堀義典、佐藤直樹 | プロデューサー：天野貴月 | ラインプロデューサー：仙田麻子 | 撮影監督：竹山ニコラス | 美術：安藤秀敏、菊地実幸
録音・整音：坂元就 | 音楽：田中敏治 | 効果：清水祐紀子 | 助監督：江良圭、末永賢 | 衣裳：小松沙和 | ヘアメイク：大宅理絵 | 制作担当：三吉優也 | 主題歌：NILKLY "Fact or Fable"
製作：PFFパートナーズ（ぴあ、ホリプロ、日活）/ 一般社団法人 PFF | 制作プロダクション：エリセカンパニー | 配給：一般社団法人 PFF / マジックアワー
©2020 PFFパートナーズ（ぴあ、ホリプロ、日活）/ 一般社団法人 PFF | 2020年/日本/カラー/1.85:1 / 5.1ch / DCP / 119分 | www.nekosho.jp

僕の職業は、猫である。

CAT and SALT or SUGAR

業の職業は、猫である。とはいえ、なかなか理解しがたいかもしれないが……猫なのである。

しかし、昔は違った。一般社会におけるお手本のように、真面目に勉強を重ねる日々。高学歴とされる大学へ入学。そして、大企業へ就職するためのゴールへと一直線。しかし、ゴールしたと思ったものの、束の間で。また次のゴールが現れる。出世に、結婚。子育て。そして、一戸建て。それが常識的で、正しいベクトルつまり、幸せのゴールがある方向である。が、やたらとお金がかかる。うんざりした僕は……ある日、森の中で、アインシュタインに出会った。彼は、200年以上ものあいだ信じられていた、とても大きな常識をくつがえした。時間ではなく、光の速度だけが絶対的で不変。僕に衝撃を与えたのは相対性理論、というよりも、アインシュタインという人物のスタンスだ。業の得たアインシュタイン的転回には僕にコペルニクスの転回をもたらした。僕のいた常識的な社会。それは、札束というあまたの神々。そして、神々を信仰する支配者たちによって作られた常識という名の下に。僕は、そんな社会から抜け出して。幸せのベクトルを自分自身で定めた。それがこの、『お母さんのための猫』という職業だ。この職業の重要性は、お母さんについての説明しなければ理解不可能である。が……それはしない。なぜなら。僕の一方的な説明が始まってからすでに2分50秒程度が経過している。人間の集中力は三分間が限界だ。が、時間もまた相対的なものである以上……まあいい。ただ最後に一つだけ……僕にとって、この暮らしこそが最も最適な、幸せのベクトルなのである。



元ニートの40歳新人監督が混迷時代に放つ “クセが強く愛おしい”ホームコメディの誕生!

型破りな脚本、絶妙なキャスティング、「アリの巣を俯瞰的に観察する面白さ」を再現したカメラワーク、敬愛してやまないアイドル「NILKLY(ニルクライ)」の起用、多肉植物やVRゲームなどの小道具が作り出す世界観……。一瞬たりとも目が離せない、観れば観るほどクセになる! 「幸せとは何か?」という壮大なテーマを掲げながら、独特のユーモアセンスで観る者の意表を突き続ける、こだわり満載の痛快作。

STORY 社会を拒絶し自主的に母のペット「猫」になった長男、憤ましい母、アル中の父の3人で暮らす佐藤家。母と元カレの再会をきっかけに、その娘(美少女!)も巻き込み、狭いひとつ屋根の下、奇妙な同居生活が始まる――。

猫と塩まはな砂糖

第25回PFFスカラシップ作品

監督・脚本・編集:小松 孝 | 出演:田村健太郎、吉田漢音、諏訪太郎、池田成志、宮崎美子
主題歌:NILKLY「Fact or Fable」| 配給:一般社団法人PFF/マジックアワー
2020年/日本/カラー/1.85:1 / 5.1ch / DCP / 119分

小松孝監督
劇場デビュー作

早稲田のシナ研で天才と呼ばれるもデイトレーダーに転身して失敗、ニート生活を経て撮影した映画『食卓』でPFFアワード2016 グランプリ受賞で映画監督に返り咲いたユニークな経歴の持ち主。繊細さとシニカルさを持ち合わせたコメディ映画を得意とする。本作で第25回PFFスカラシップ*を獲得し商業映画デビューを果たす。

*PFF(びあフィルムフェスティバル)スカラシップとは?

1984年創設の映画監督育成プロジェクト。これまでに橋口亮輔監督「二十才の微熱」、李相日監督「BORDER LINE」、石井裕也監督「川の底からこんにちは」など日本映画史に残る名作を世に送り出してきた。



nekeshio_movie
www.nekeshio.com

横浜シネマリン
上映開始 22.10.22 ~
045-341-3180